



# 春の楽寿園に お出かけください

☎楽寿園 (☎975-2570)

## ツリークライミング

専用のロープやサドル(安全带)、安全保護具を使って木に登り、自然との一体感を味わいます。木の上から見ると新しい発見がいっぱい。

とき 5月15日(日)①午前10時～正午、②午後1時～3時

ところ 小浜の森入口集合

対象・定員 小学1年生以上・①②ともに先着12人程度

費用 1人2,500円(器材レンタル、保険、体験料込)

※付き添い無料、楽寿園入園料別途必要

持ち物 運動しやすい服装(長袖、長ズボン)、タオル、運動靴、飲み物、着替えなど

申込み 5月13日(金)までに、楽寿園へ。

## 春のふれあい動物広場

ミニチュアホースやアルパカを間近で見られるチャンス。

とき 4月10日(日)午前10時～午後3時

ところ 楽寿園どうぶつふれあい広場



## 楽寿の森マルシェ出店者募集

地域のママさん作家のハンドメイド品、ワークショップ、飲食物などが集合。あなたも手作りの作品を販売してみませんか。

とき 7月18日(月・祝)午前10時～午後3時

ところ 楽寿園内

申込み 4月20日(水)(必着)までに楽寿園(〒411-0036一番町19-3)へ。※詳しい募集要項は楽寿園ホームページ、または楽寿園へ。

## 三島でインディア2016カレー博 in 楽寿園

とき 4月17日(日)午前10時～午後4時

ところ 楽寿園内

内容 ▶カレーブース(全9店) 本場インドカレーや子どもも食べられるカレー、ドリンク、ラッシー、インドビールなど※すべてチケット制。園内特設ブースで販売(余ったチケットは当日に限り返金可)。カレーは1杯300～900円

▶インディアブース インドを体感できるブース

▶新鮮野菜が手に入るマルシェ

▶ステージショー インド舞踊、ヨガパフォーマンス、青空カレー学校(カレーにちなんだ面白話を聞ける授業)など※内容は変更になる場合有り

## みしまブックフェス

～書を持ってまちに出よう～

「子ども読書の日」に合わせ、市内3個所で本を楽しむイベントを開催します。古本市出店者も募集中。

とき 4月23日(土)午前10時～午後3時

ところ ①楽寿園②大社の杜③図書館

内容 ①古本市、幅充孝さん(ブックディレクター)によるトークショー、ジント号がやってくる(貸し出しには身分証や貸出カードが必要です)、紙芝居②ことばのパズル(優秀作品には賞品有り)、旅する本屋放浪書房、おもしろ本屋出店ブースなど、楽しいコンテンツ盛りだくさん③パラパラ絵本を作ろう※内容は変更になる場合有り

申込み・問合せ 商工観光課(☎983-2766)※詳細は楽寿園ホームページをご覧ください。

## 楽寿園の市民招待券をご利用ください

▼平成28年4月1日から三島市民の皆さんが利用できます。切り離してお使いください。

楽寿園三島市民招待券  
1人1枚



平成29年3月31日まで有効

楽寿園三島市民招待券  
1人1枚



平成29年3月31日まで有効

楽寿園三島市民招待券  
1人1枚



平成29年3月31日まで有効

楽寿園三島市民招待券  
1人1枚



平成29年3月31日まで有効

※楽寿園の料金改定に伴い、市民招待券の発行は平成27年度から広報みしま4月1日号のみ(年間1回)となりました。

ひとつやなぎなおす  
一柳直末とその子孫  
いちりゅうあんあと そうかんじ  
～一柳庵跡・宗閑寺～

今回は、山中城の戦いで討ち死にした豊臣方の武將・一柳直末ゆかりの史蹟についてご紹介します。

戦国時代末、今から四二六年前の天正十八年（一五九〇）春、豊臣秀吉が小田原北条氏の攻略に乗り出しました。その緒戦となったのが、三月二十九日明け方に始まった山中城の戦いです。圧倒的な兵数で臨んだ豊臣方の軍は、正午過ぎには同城を落とし、箱根道を進軍していききました。

一柳直末は、元亀元年（一五七〇）より木下藤吉郎秀吉（後の豊臣秀吉）に仕え、各地の戦で活躍した武將です。天正十八年（一五九〇）小田原合戦に随行し、山中城の戦いで先鋒をつとめ、鉄砲の銃弾に胸を射抜かれて討ち死にしました。古参の家臣・直末の討ち死にの報せを聞いた秀吉は、持っていた箸をとり落として絶句し、三日間悲嘆に暮れたと伝えられて

います。

直末が討死すると、その首は旗指（戦場で主人の旗を持って従う武士）によって持ち去られ、黄瀬川沿いの長久保村（現・長泉町下長窪）に埋められたといわれています。胴体は戦場に残され、箱根西坂の笹原新田に埋められたらしく、慶長七年（一六〇二）に同地に一柳庵という堂舎が建てられ、菩提が弔われたようです。（写真①）



▲写真①：一柳直末墓（一柳庵跡・笹原新田）

江戸時代に入ると、この直末の子孫の中から、先祖の名声を後世に伝えようとする動きがでてきました。元禄十一年（一六九八）には播磨国（現・兵庫県）小野藩第二代藩主・一柳末礼が、一柳庵の墳墓を山中新田にある宗閑寺の境内に移しています。これは墳墓が路傍の茶店の背後に位置していたため、祭祀が行われなくなること

藩主）の兩人によって、宗閑寺の直末墓前にその事蹟を刻んだ石碑が建立されました。（写真②左手）



▲写真②：直末の事蹟を刻んだ石碑（宗閑寺・山中新田）※写真左手

を危惧しての措置だったようです。寛政四年（一七九二）には末礼の孫にあたる小野藩第五代藩主・一柳末栄、その子・末英（第六代



▲宗閑寺境内入口の碑

このように市内に現存する直末史蹟の背景から、その子孫たちによる先祖顕彰の動きを見ることができま



二島の村名⑤  
梅名  
（中郷地区）  
梅縄城

梅名の御殿川右岸には、かつて梅縄城と呼ばれた城がありました。梅縄城の築城年代は不明ですが、戦国大名・後北条氏支配の時代には領地の境と韮山城の間にあつて繋ぎの役割があつたと考えられている平城です。堀、土塁、館、船着き場などを備えていたと推測されます。

天正十八年（一五九〇）の豊臣氏による小田原攻めにより後北条氏が敗れた後、徳川家康の家臣で掛川城主も務めた石川家成に与えられました。江戸時代初期に家成の養子ほか、数代の居住があつた後に城は廃止され、江戸時代中期には年貢や備蓄用の穀物を納める郷蔵が作られました。郷蔵は明治四年（一八七

一）ごろまで使われていましたが、今ではその面影を残すものはありません。

現在は梅名郷土史研究会によって「梅縄城址／御蔵場址」の石碑が建てられ、稲荷社が祀られています。



▲現在の梅名城跡